

八幡西消防署移転新築事業



消防局総務部人事課
平成28年12月15日

事業名

八幡西消防署移転新築事業

事業期間

H26～H32年度

事業目的

八幡西消防署(築50年)

本市西部域(若松、八幡東、八幡西、戸畑)の拠点消防署

- 狭隘・老朽化、耐震性不足
- 災害出動できる体制を維持しながらの耐震化は困難

移転新築 ⇒ 狭隘・老朽化の解消と耐震性を確保

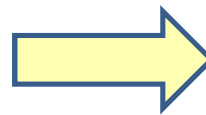
市民の安全・安心の更なる向上

庁舎概要

	建替え前	建替え後（予定）
所在地	八幡西区相生町15-25	八幡西区相生町19
構造	鉄筋コンクリート造3階建て	
敷地面積	1,848㎡	3,501㎡
延べ面積	1,983㎡	3,112㎡
竣工	S41.8（築50年）	H31年度末
車両台数	16台	
職員数	33人（総員67人）	



【八幡西消防署】



移 転

【八幡西生涯学習センター一跡地】₃

移転先

現八幡西消防署

八幡西区相生町 15-25

新八幡西消防署

八幡西区相生町 19



事業スケジュール

年 度	生涯学習 センター	新庁舎	旧庁舎
H 2 6	解体設計		
H 2 7	解体工事		
H 2 8		基本設計・公共事業評価	
H 2 9		実施設計	
H 3 0		建築工事	
H 3 1		建築工事・竣工(H31年度末)	解体設計
H 3 2			解体工事

事業費	
生涯学習センター解体費	119,959千円
新庁舎建設費	1,242,981千円
旧庁舎解体費	64,459千円
総事業費	1,427,399千円

消防署等の設置根拠

消防に要する費用負担並びに消防署の設置

<消防組織法>

第8条 市町村の消防に要する費用は、当該市町村がこれを負担しなければならない。

第9条 市町村は、その消防事務を処理するため、次に掲げる機関の全部又は一部を設けなければならない。

(1) 消防本部 (2) 消防署 (3) 消防団

八幡西消防署について

八幡西区全域を管轄するとともに、本市西部域（若松・八幡東・戸畑区）の災害にも出動

⇒ 本市西部域の拠点消防署（西部方面本部）

拠点消防署：西部方面を統括する指揮隊の配置、西部域の市民講習会の開催

移転先について

現所在地は、

- ・ 八幡西区内の他の署所（分署・出張所）との配置バランスが良い。
 - ・ 都市高速道路や国道3号線に近く、市内各方面へ出動できる。
 - ・ 山や川等が周囲にないため、水害や土砂災害を受けにくい。
- ⇒ 消防署の配置場所として適地

近隣で生涯学習センター跡地（市有地）を確保できることとなった。

⇒ 移転候補地として決定

八幡西区の署所配置

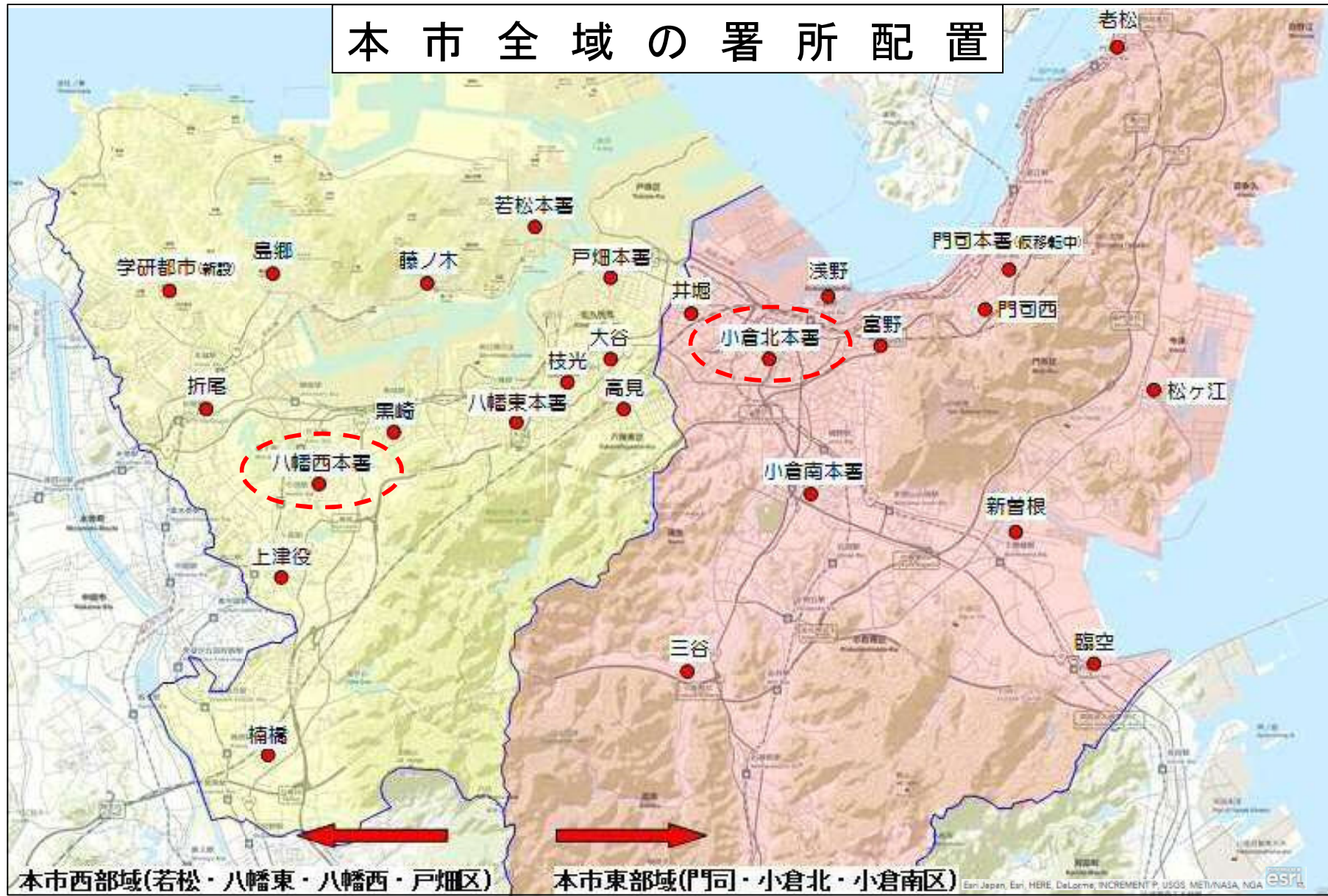


現所在地は、他署所との配置
バランスがよく、八幡西区中心
部を隙間なくカバーしている。

消防署所を中心とした円は、
⇒国が建物火災を独立火災に抑えるため
の範囲とする半径2.25kmを示す。
※消防車が出動から現場到着まで4分30秒
(時速30km/h)で到達できる距離

消防力の整備指針・消防庁告示第1号

本市全域の署所配置



事業の必要性（耐震性の確保と消防機能の強化）

現状と課題（庁舎）



【ひさしの劣化】



【外壁の亀裂】

○ 地震発生等 ⇒ 庁舎そのものの倒壊に加えて、ひさしや外壁が落下するなど、一般車両や通行人に被害がおよぶ恐れ

課題改善（庁舎）

- 狭隘・老朽化の解消、耐震性の確保、消防機能の強化

建替え後イメージ(小倉北消防署)



現状と課題（車庫）



狭隘でドア開放不可



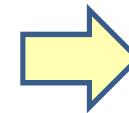
迅速な出動に支障

課題改善（車庫）



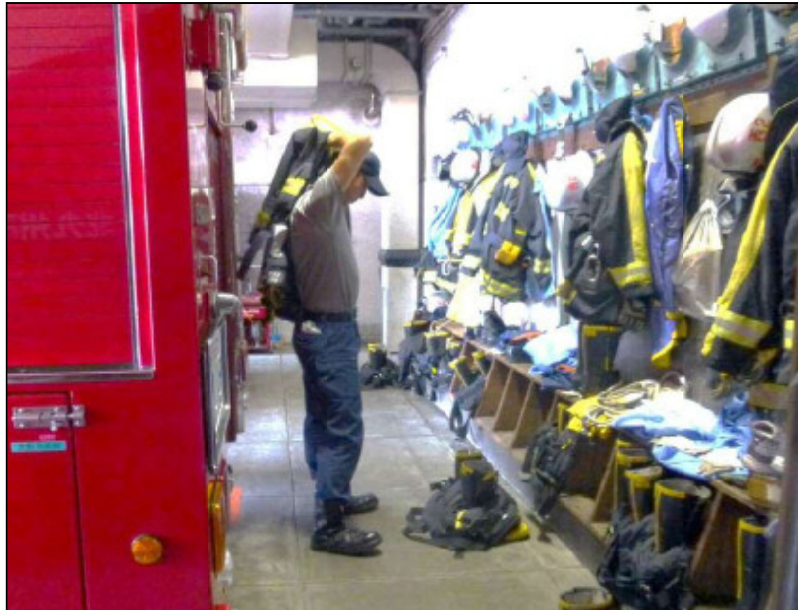
建替え後イメージ（小倉北消防署）

間口が広くなり、
縦列駐車が解消



迅速な出動

現状と課題（出動準備場所）



- 出動準備室未整備
 - 防火服着装時
隊員同士、消防車両との接触
 - 防火服の劣化
 - 盗難のおそれ

課題改善（出動準備室）

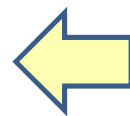
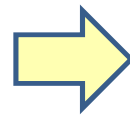


建替え後イメージ(小倉北消防署)

- 隊員同士や車両との接触回避
- 防火服の保護
- 盗難防止

現状と課題（消毒室）

○救急消毒室が使用不可



課題改善（消毒室）

○救急車の近くに消毒室を配置 ⇒ 汚染拡大防止、業務の効率化

建替え後イメージ(小倉北消防署)



消毒室

現状と課題（来庁者と職員の動線）



○ 来庁者の動線と職員の出動動線が同じ ⇒ 出動時に危険性

課題改善（来庁者と職員の動線）

- 来庁者の動線と職員の出動動線が分離 ⇒ 出動時の安全性確保



現状と課題（仮眠室）



仮眠室内部



○ 仮眠室が個室化されていない ⇒ 交替制勤務への女性職員配置不可
プライバシー面での問題

課題改善（仮眠室）

○ 仮眠室を個室化

⇒ 職員のプライバシーの確保
交替制勤務への女性職員配置



建替え後イメージ(小倉北消防署)

その他の機能強化

<作戦室>

- ・ 台風等災害時、消防隊対策本部として活用
- ・ 事務所との壁をパーティションとする



大規模災害時の指揮本部としても対応



<シャッター整備>

夜間や災害出動中の

防火服や資器材等の盗難防止



市民の要望等

八幡西消防署の建替え ⇒ H21.2の本会議で要望

市の計画との関連性

「元気発進！北九州」 ⇒ 消防署所の適正配置

PFI等の導入検討

- ・ 小倉北署整備時の民間シンクタンクによる調査資料
⇒ 管理・運営について、民間のノウハウを活かす余地が少ない。
- ・ 他都市消防施設の導入状況 ⇒ 過去、全国で7施設
- ・ 内閣府が公開している簡易な検討の計算表 ⇒ VFM6%

※DB0方式、事業期間20年、事業費削減率10%

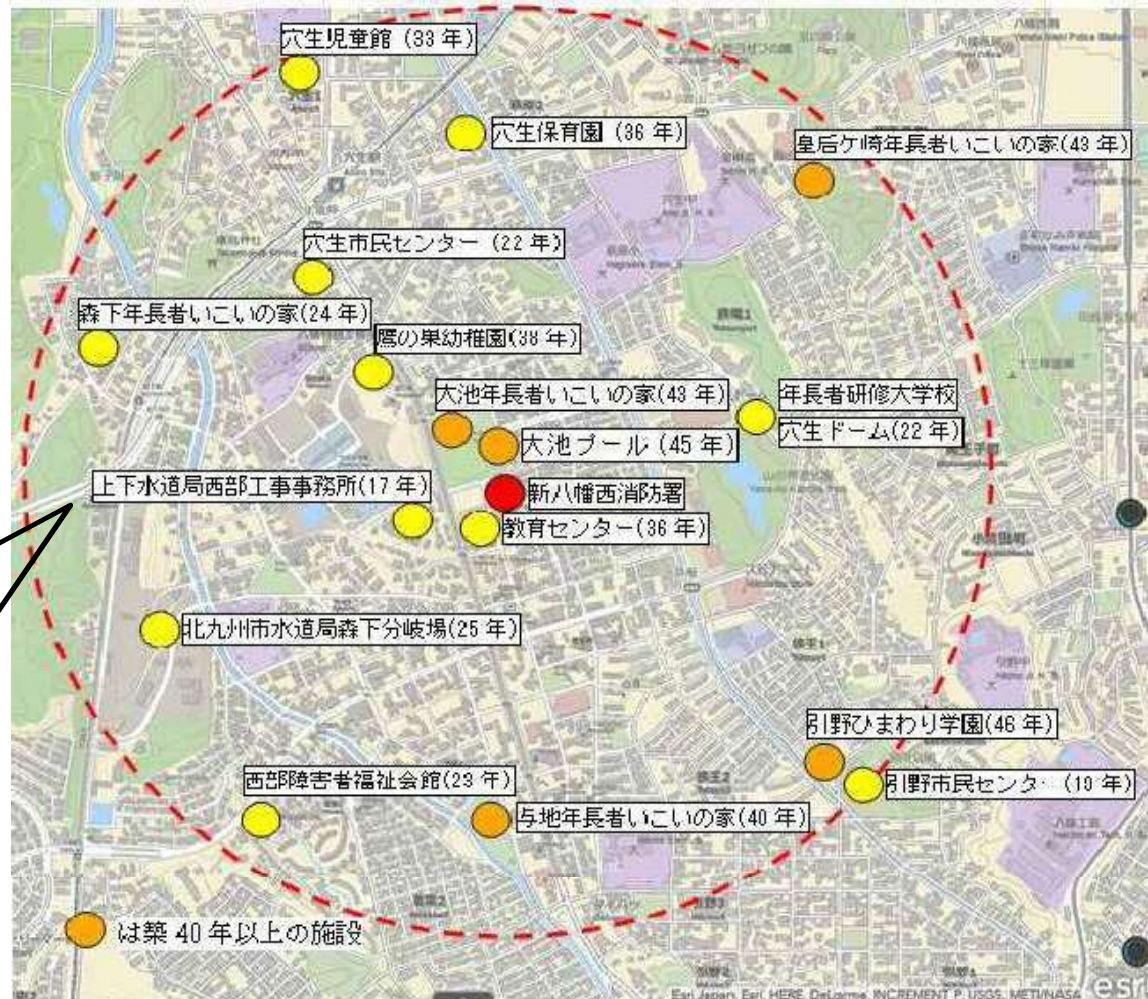
(H25・26年度内閣府導入可能性調査の平均費用削減率を採用)

公共施設との複合化

近隣では建替えを検討する公共施設はない。

- ・ 市営住宅、学校
- ・ 放課後児童クラブは除く。

八幡西消防署から1キロ圏内の公共施設



※ () は建築年数 (平成27年11月現在)

民間施設との複合化

八幡西消防署

- ・ 敷地が狭く他種施設との動線分離不可
- ・ 災害出動や訓練等を考慮し、消防庁舎は災害対応の機能に特化

事業者側のデメリット

- ・ サイレン等の騒音
- ・ 建設コストの増(耐震性確保のため)
- ・ 低層階使用不可
- ・ 駐車場の問題

将来需要

課題・需要の継続性

現庁舎は老朽化に加え、

- 近年の業務拡大
- 消防車両の大型化
- 職員の労働環境の改善や女性職員の配置
など、現代の消防署としての機能を備えていない状況
⇒ 本事業を行う以外には解決できない。

将来の需要

- 発生が懸念される南海トラフ地震や豪雨災害等の自然災害が多発
 - 高齢化の進展に伴う救急件数の増加等
- ⇒ 消防への市民需要は今後も増大

事業の緊急性

課題を解決しない場合に生じる影響

【熊本地震】

耐震性のない公共施設に甚大な被害
発生が危惧される南海トラフ地震等

いつ大地震に襲われるか分からない

地域の防災拠点である

消防署の耐震化は喫緊の課題

消防署が被災

⇒消防車や資器材が使えず活動できない。



【災害時の司令塔となる市役所が被災】

事業の経済性・効率性・採算性

建設時のコスト縮減

〈事業規模〉

他都市の消防署平均面積と比較

⇒ 敷地面積は狭く、庁舎規模も小さい。

〈事業規模（政令市比較）〉

		敷地面積	延べ面積
北九州市	八幡西消防署	3,501m ²	3,112m ²
福岡市	消防署平均	3,900m ²	3,690m ²
岡山市		4,865m ²	4,514m ²
神戸市		3,026m ²	3,255m ²

※ 面積は過去10年に建設された消防署平均

〈事業規模(市内の消防署との比較)〉

消防署 (竣工年)	敷地面積	延べ面積	職員数	車両台数
新八幡西 (H31年度末)	3,501m ²	3,112m ²	33人	16台
門 司 (H31)	2,495m ²	2,423m ²	27人	15台
八 幡 東 (H28)	3,775m ²	2,565m ²	27人	12台
小 倉 北 (H26)	3,456m ²	3,141m ²	39人	15台

〈庁舎規模の妥当性〉

八幡西署には小倉北署にない防災倉庫(225m²)と訓練塔(66m²)を整備

○小倉北署は浅野分署に防災倉庫を配置している。(386m²)

○小倉北署は管内の訓練研修センターに訓練塔2棟(11F・7F)がある。

⇒ 八幡西区にも、その代替として訓練塔を整備

延べ面積が1,129㎡増加した主な理由

消防機能の充実・強化

- ・ 出動準備室の配置(出動時の安全性、防火服の保護、盗難防止) ⇒ 68㎡
- ・ 作戦室の配置(大規模災害時への対応) 40㎡ ⇒ 177㎡
- ・ 仮眠室の個室化(プライバシー保護、女性職員配置) 114㎡ ⇒ 249㎡
- ・ 屋内訓練室、訓練塔の配置(訓練機能の強化) 138㎡ ⇒ 305㎡
- ・ 資機材倉庫等の配置(災害対応機能の強化) 111㎡ ⇒ 237㎡
- ・ 階段、廊下の増設(安全な動線の確保) 77㎡ ⇒ 234㎡

来庁者の利便性向上

- ・ プライバシーに配慮した専用受付を配置 188㎡ ⇒ 251㎡
- ・ バリアフリー化(多目的トイレ、エレベーター) 37㎡ ⇒ 132㎡

〈工期と事業費の比較〉

消防署	工 期	総事業費(百万円)	建築工事費(百万円)
新八幡西	H30. 10～H32. 3(1年5ヶ月)	1, 4 2 7	1, 1 1 7 (359千円/m ²)
門 司	H29. 11～H31. 3(1年4ヶ月)	1, 3 2 8	1, 0 8 9 (449千円/m ²)
八幡東	H26. 9～H28. 3(1年6ヶ月)	9 9 0	7 9 1 (308千円/m ²)
小倉北	H24. 10～H26. 1(1年3ヶ月)	9 5 7	8 1 4 (259千円/m ²)

事業費の上昇理由

- ・生涯学習センター解体費用(119百万円)
- ・小倉北署整備時から労務単価や建築材料費が高騰 (工事価格変動率27%上昇)
- ・消費税増税(5% ⇒ 8%)
- ・八幡西署の事業費は現時点での見積額である。

管理運営の検討

管理運営は消防局 ⇒ 委託はエレベーター保守と定期清掃のみ(1,761千円/年:小倉北署実績)

事業の熟度

関係者等との協議状況

八幡西区役所、市立教育センター、八幡西区自治総連合会
地元自治会（小嶺台、穴生第1、竹末）に説明済み。

⇒ 本事業への反対意見はない。

阻害要因

サイレン等の騒音苦情が予想

⇒ 庁舎のレイアウトの工夫、近隣住民への丁寧な説明

用地取得の難航

移転用地の利用について、市有財産利用調整協議会から承認

⇒ 消防車両の出動を考慮して、道幅を拡幅するよう教育委員会等
と調整中

道路の拡幅について



道路の拡幅 ⇒ 教育委員会、警察、区役所と調整中

環境・景観への配慮

「環境配慮チェックリスト」による点検

事業の進展にあわせ実施していく。

環境アセスメントの必要性

対象事業に該当しない。

周辺環境・景観への影響

住宅地方面へ移転するため、サイレン等の騒音苦情が予想される。

環境配慮・景観配慮の手法

LED照明や節水器具など環境に配慮した設備を積極的に導入し、環境負荷の低減を図る。

地域への社会貢献・啓発活動

市民への防火・防災啓発

⇒ 消防隊が各地域(学校等)に出向き
防火・防災教育や訓練展示を行う
ことを基本としている。



消防署の見学

⇒ これまでどおり、災害対応に支障のない範囲で対応する。

団体向けへの訓練・見学

小倉北区東港の市民防災センター

⇒ 訓練の見学や地震体験、初期消火
訓練、煙体験、暗中通過などの防
災体験ができる。

